

医学生の皆さんへ

初期研修プログラム内での呼吸器内科研修について

日本赤十字社医療センター呼吸器内科スタッフ

出雲雄大（部長）、猪俣稔（副部長）、久世眞之、粟野暢康、坂本慶太、高田康平（国立がん研究センター中央病院派遣中）、藤本一志、武藤豊（神奈川県立循環器呼吸器病センター派遣中）、齊木彩絵、伊藤佑、松本晴子

日本赤十字社医療センター初期研修プログラムでの呼吸器内科ローテーション研修の特徴

- ・ 内科の中でも特に重要といえる呼吸管理が学べます。
- ・ 病棟は若手中心でコミュニケーションが取りやすい環境です。
- ・ ジュニアレジデント（初期研修医）の担当患者数は7~10人程です。
- ・ 肺癌、アレルギー、感染症など多彩な疾患が経験できます。



都心の基幹総合病院でバランスの良い臨床経験が可能

・ 大学病院や National center などの呼吸器内科では入院患者さんの多く（80%以上）が悪性腫瘍ということがありますが、当科は悪性腫瘍と非悪性腫瘍の割合が約 50%であり、また救急からの入院も多く、初期研修ローテーションでバランスよく経験ができます。

経験できる疾患

- ・ 感染症：新型コロナウイルス感染症、市中肺炎、院内肺炎、結核、非定型抗酸菌症、真菌症（アスペルギルス、クリプトコッカス等）、放線菌症、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス肺炎など
- ・ 慢性気道疾患・アレルギー疾患：気管支喘息、COPD、気胸、リンパ脈管筋腫症、びまん性細気管支炎、ANCA 関連血管炎、膠原病関連肺疾患、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症など

・びまん性肺疾患：特発性間質性肺炎、薬剤性肺障害、過敏性肺炎、サルコイドーシスなど

・腫瘍性疾患：原発性肺癌、転移性肺癌、悪性胸膜中皮腫、胸腺腫、胸部のリンパ腫など

学術活動の推進

初期研修医のドクターにも積極的に学会発表を行っていただいています（強制ではありませんが、一緒に受け持ちを

した指導医が指導し、できる限り学会発表することを勧めています）。呼吸器学会関東地方会を中心に発表（受け持

ち症例）を行っています。これまで最優秀賞や優秀賞などを多数受賞しています（最近3年間で12人受賞）。英語

論文も最近3年間で33本執筆し、初期研修医の先生が筆頭著者のものも4本あります。



医学生の皆さんへ

最後に当科のセールスポイントを以下にまとめます。

・カンファでの教育的な雰囲気。人工呼吸器、非侵襲的陽圧換気の症例を経験できるチャンスが多い。症例は多彩で

Common disease から専門的な病気まで経験可能。手技の機会が多い（胸腔ドレーン挿入、中心静脈カテーテル

挿入、胸腔穿刺、気管支鏡の観察など）。胸部 X 線、CT の読み方が学べる。みんなで日常臨床だけではなく、研究や

発表も頑張ろうという雰囲気、などです。ぜひ一度見学にいらしてください。

見学に関する問い合わせ先

日本赤十字社医療センター教育研修推進室 rinsyokensyu@med.jrc.or.jp または、

日本赤十字社医療センター呼吸器内科教育担当（部長）出雲 雄大 izumo_takehiro@med.jrc.or.jp